

中土佐町地域福祉計画策定委員会 かわら版

「安心してだれもが 自分らしく暮らすことのできるまち」

第2号：平成28年11月発行

第2回策定委員会が開催されました！

平成28年9月26日に第2回中土佐町地域福祉計画策定委員会が開催されました。

委員会では、第2期計画の目標及び推進方策等を検討するとともに、「地域カルテ及び地域アクションプランについて」では、地域活動に取り組んでいる委員の皆様から積極的なご報告をいただきました。



第2回中土佐町地域福祉計画策定委員会 議事

1. 事業所ヒアリング及び中土佐はたらくチャレンジプロジェクト事業所調査について
2. 事業評価について
3. 第2期地域福祉計画の目標及び推進方策について
4. 地域カルテ及び地域アクションプランについて

第2期計画の基本的な考え方が決まりました！

第2期計画の基本理念やめざすまちの姿のイメージが決まりました。中土佐町の地域福祉を推進するためには、行政だけではなく、住民の皆さん、事業者、社協、行政の協働が欠かせなくなっています。

<基本理念>

協働でつくる誇りのもてるまち

<めざすまちの姿>

安心して 誰もが
地域で自分らしく暮らすことのできるまち

【計 画 の 期 間】

平成29年度から平成33年度までの5年間を計画期間とします。

【計画における地域】

第1期地域福祉計画に引き続き、久礼、上ノ加江、矢井賀、大野見の4地域を地域福祉活動における「地域」に位置付けます。

裏面に続きます

地域カルテと地域の話し合いから見た現状と課題、地域で活動する委員からの主な意見

大野見地域

地域の現状と課題

1. 人口の減少と高齢化

地域での見守りやコミュニティの場の活用など高齢者を地域で支える仕組みづくりが必要です。

2. 健康づくり・生きがいづくり

健康づくりや生きがいづくりに住民同士が積極的な参加を促し合うことが大切です。

3. 支え合い活動の継続

現在の支え合い活動を継続するとともに、新たな担い手づくり等が必要になっています。



委員からの意見

- 夜8時に歩いて帰っている時に、暗さを感じました。世帯が少なく空き家増えており、真っ暗なので、防犯・防災の課題となっています。(正岡委員)
- エコロジーファーマーズでは、「はたらくプロジェクト」の中間的就労の受け入れを行いました。参加した方がやりがいを感じたようで、「またやりたい」との声がうれしかったです。(下元和恵委員)
- 民生委員をしています。高齢者で一人暮らしの方が多いです。車の運転ができなくなった方も多く、バス便も減り、交通手段に困る人が多くなっています。(下元一志委員)

上ノ加江地域

地域の現状と課題

1. 担い手育成

現在活躍する住民は何役も担い、ボランティア団体や組織自身も、人材不足で活発な活動が十分にできない現状があります。

2. 多世代のつながり強化

多世代の住民がつながりを継続、強化していくことが必要です。

3. 自助力の向上

困った時や災害時に対応できるように、住民一人ひとりが考え取り組むことが必要です。



委員からの意見

- 昨年の町民運動会は社協の協力もあり、町外の方の参加もあってにぎやかになりました。今後は担い手として若い世代の関わりが課題です。(濱田委員)
- 1人で民生委員など何役もなので、高齢者にも頼れることは頼っています。災害時に助けに来てほしいという高齢者の方が、多くいます。(木村委員)

矢井賀地域

地域の現状と課題

1. 人口減少と高齢化

人口減少や高齢化は年々進行しており、今後、担い手不足から生活課題を地域でカバーできない可能性があります。

2. つながり強化活動の継続

今後も、住民同士のつながりを強めることができる活動を継続していく必要があります。

3. 自分でできる災害への備え

高齢化に伴い、災害時に支援を要する高齢者は今後増えることが予想されます。



委員からの意見

- 高齢者の一人暮らしの方が多く、買い物難民も増えています。買い物を代行し渡しても料理をできなくなってきた人がいます。(戸田委員)
- 足が痛い70歳の方の買い物を80歳以上の方が助けている、という場合もあります。また、寄り家の小地域ケア会議では運動会についても話し合いました。(三宮委員)

久礼地域

地域の現状と課題

1. 大規模災害に備えた日頃からのつながりづくり

自主防災組織の活動や避難訓練を通じて、日頃から隣近所とのつながりをつくり、顔の見える関係をつくるのが重要です。

2. 子ども・子育て支援

地域との関わりを増やす取り組みや、地域での見守りを通して子どもを守る地域づくり、早期から相談できる体制づくりが重要となっています。

3. 担い手育成

地域福祉活動への参加等を通して、地域に関心を持つ担い手を増やしていくことが必要です。



委員からの意見

- 民生委員の受け持ちエリアは高齢化が非常に進んでいて、避難時への心配があります。担い手育成など、様々なことが課題です。(山本委員)
- 10月末に予定している自主防災組織の訓練は、車いすの方にも参加していただく予定です。また、子育て世代にも相談し、子どもの参加も予定しています。(坂井副委員長)

